Brief communication
［査読有り］ 短 報

新約聖書「コリント人への第二の手紙」にみとめられる裏返し構造
—村井による集中構造を前提とした検討—

The reversal structure of the Second epistle to the Corinthians in the New Testament
—Based on Murai's concentric structure—

大喜多 紀明
やぐら遺跡伝承文化研究会

Noriaki Ohgita
Folklore and Culture Study Group of *Yagura*

キーワード：裏返し構造，新約聖書，コリント人への第二の手紙，キアスムス
Key words：Reversal structure, The New Testament, Second epistle to the Corinthians, Chiasmus

抄録

裏返し構造は，異郷訪問譚にみとめられる構造であるが，例えば聖書テキストにおいては，異郷訪問譚とはいえない形式であるにもかかわらず，裏返し構造がみとめられる事例が報告されている．本稿では，未だ，裏返し構造の観点による調査がおこなわれていないテキストの一つである新約聖書に収納された「コリント人への第二の手紙」を題材に，当該テキストが裏返し構造により構成されているといえるか否かの検証をおこなった．その結果，本テキストは裏返し構造からなることがみとめられた．

1．はじめに

裏返し構造とは，キアスムスにおける構造上の下位概念であり，大林論文[1]によれば，ルーマニアのフォークロリストであるミハイ・ポップが，ルーマニアの昔話「兵士としての少女」にみいだした構造である[1]．ポップの知見を受けた大林は，この構造を異郷訪問譚と関連づけ，異郷訪問譚における構造上の「共通の約束」[1]として位置づけた．本稿ではこれを「大林説」と呼ぶことにする．

大林説の妥当性については，依田論文[2]および加藤論文[3]が韓国の異郷訪問譚を対象に，筆者の以前の報告では日本の小説[4]，アニメーション映画[5]，漫画[6]を対象に，それぞれの検証がおこなわれた．これらの一連の検証は，等しく大林説の妥当性の高さを支持した．一方で大林論文では，かかる大林説の限界が，裏返し構造以外の構造を持つ異郷訪問譚の存在に関する検証（これを「課題①」とする）や，あるいは異郷訪問譚とはいえない物語にも裏返し構造がみとめられる事例があるかの検証（これを「課題②」とする）がおこなわれていないところにあることを述べた．本稿では，課題①には注目せず，とりわけて課題②に注目することにする．

課題②の検証をおこなった先行研究には，筆者の一連の前稿がある．つまり，いくつかの異郷訪問譚といえないアイヌ口承テキスト[7]および聖書テキスト[8]において，明白な裏返し構造がみとめられた．その一方で，当該調査件数が十分であるとはいえないため，当該先行研究は事例紹介にとどまり，引き続き検証を進める必要性があることが記された．併せて，アイヌおよび聖書以外の領域における当該調査の必要性についても述べられた．以上をふまえ，本稿では，課題②の検証を，聖書テキストを対象におこなうことにする．なお，本稿では，アイヌテキスト，あるいはアイヌおよび聖書以外の新たな領域のテキストについての検

[1]大林論文によれば，ポップの当該論文は，『Folclor Literar』（1967 年出版）所収の「Metode noi in cercetarea structurii basmelor」である．筆者はこの論文を入手することができなかった．

証はおこなわないことにする[2].

聖書は，旧約聖書と新約聖書によって構成されている．本稿では，新約聖書に注目する[3]．新約聖書では，執筆年代の差異はあまりみとめられない．その一方，新約聖書に収納された書簡の著者の一人であるパウロはユダヤ人であるが，ルカによる福音書および使徒行伝の著者であるルカはユダヤ人ではないなど，著者の属性は単一であるとはいえない[9]．さらに，聖書に収納されたそれぞれの「巻」は，独自の編集過程を経て現在の形態に至っている[10]とされる[4]．以上は，単に聖書テキストといっても，巻ごとの特性が異なるため，個別の検証が必要であることを示している．

現在までに，裏返し構造の観点による検証がおこなわれた新約聖書のテキストは下記の通りである．なお，本表を含めた本稿での各巻の題名については，いわゆる口語訳聖書[11]のものを採用した[5]．かつ，本稿における聖書テキストの引用についても同様に口語訳聖書を使用した．ここで，下記の表は，新約聖書に収納された巻を列挙したものであり，裏返し構造の観点から検証された巻については「○」，および，検証がおこなわれた論文（引証）を示した．なお，検証がおこなわれたすべての巻においては，テキストが裏返し構造からなることがみとめられた．その一方，「○」が付されていない巻については，現在に至るまでかかる検証がおこなわれていない．

巻	検証	引証
マタイによる福音書	○	[12]
マルコによる福音書		
ルカによる福音書	○	[13]
ヨハネによる福音書		
使徒行伝		
ローマ人への手紙	○	[14]
コリント人への第一の手紙		
コリント人への第二の手紙		
ガラテヤ人への手紙	○	[15]
エペソ人への手紙		
ピリピ人への手紙		
コロサイ人への手紙		
テサロニケ人への第一の手紙		
テサロニケ人への第二の手紙		
テモテへの第一の手紙		
テモテへの第二の手紙		
テトスへの手紙	○	[16]
ピレモンへの手紙	○	[17]
ヘブル人への手紙	○	[16]
ヤコブの手紙	○	[18]
ペテロの第一の手紙	○	[19]
ペテロの第二の手紙		
ヨハネの第一の手紙	○	[20]
ヨハネの第二の手紙	○	[21]
ヨハネの第三の手紙	○	[22]
ユダの手紙	○	[23]
ヨハネの黙示録		

上記のように，合計 27 巻のうちの 13 巻が検証された．本稿では，現在まで当該検証がおこなわれてこなかった巻の一つである「コリント人への第二の手紙」をテキストとし，分析・検証をおこなうことにする．

2．異郷訪問譚

本稿の目的は，異郷訪問譚とはいえないテキストに裏返し構造がみとめられるか，を調査するところにある．かかる議論を進めるうえで前提として明示すべき概念は「異郷訪問譚」と「裏返し構造」である．そこで，本節では異郷訪問譚の概念を，次節では裏返し構造の概念を提示する．

異郷訪問譚とは物語形式の一種であり，通念では，主人公が主人公にとっての異郷を訪問する形式の物語のことをいう．西條論文[24]は当該形式について，「異郷に入るときは，偶然に行く」[6]，「異郷での体験は，異常体験である」[7]，「異郷から出るときは，自分の意志で出る」[8]，「異郷から出た後，

[2]聖書テキスト以外については別の機会に検証したい．
[3]旧約聖書については別稿にて検討するつもりである．
[4]逐語霊感説的な立場では編集史をみとめない場合がある．
[5]口語訳聖書の 1954 年版は著作権保護期間が終了している．本稿は，当然に学術目的の引用であり，引用行為そのものには何ら問題がないのだが，本稿での引用範囲が当該巻の全部であるため，念のため当該版を使用した．
[6]本稿ではこれを「特徴①」と呼ぶ．
[7]本稿ではこれを「特徴②」と呼ぶ．
[8]本稿ではこれを「特徴③」と呼ぶ．

主人公は変化する」[9]という 4 種の特徴を示した．本稿では，西條が提示した特徴①～④と照合し，これらとすべて合致する物語の形式を異郷訪問譚と呼ぶことにする．

３．裏返し構造

松村はキアスムスについて次のように述べた[25].

> フォークロア研究，神話学，西洋古典学，聖書学（旧約学，新約学）に共通するような伝統的言語文化の表現技法がある．分かりやすい例としては，J. F.ケネディーが 1961 年 1 月 20 日に大統領就任演説で用いた表現 Ask not what your country can do for you － ask what you can do for your country がある．この命令文では ask ~ can do という動詞句を持つ二つの文章が並べられているが，それぞれの your country と you，for you と for your country という対応する語句が前半と後半では入れ替わり，a，b，b’，a’ という形となっている．前半と後半で対応する要素の順番が交差してエックス（X）をなすこうした表現はキアスムス（chiasmus）と呼ばれることがあるが，それはギリシア語のχの呼び方（khi, chi）に因んでである．
>
> 前半と後半の対応する要素の数はさらに多い場合（a，b，c，d，d’，c’，b’，a’）もあるし，中央に折り返し地点を入れる形（a，b，c，b’，a’）もある．後者の形では中央の折り返し点に最も強調したい要素が置かれることが多い．中央に折り返しの要素があるタイプをないタイプと区別したい場合には，ある方を concentric と呼んで区別することもある．

つまり，構文や物語などにみとめられる，下記のような対称性に富んだ構造のことをキアスムスと称する．

A→B→・・・→（X）→・・・→B´→A´

ここでの A と A´，B と B´などは，キアスムスを構成する「対応」である．また，松村は，それぞれの対応を構成する A，A´，B，B´などを「要素」と呼んだ．さらに，キアスムスの構造上の中央に位置する，対応を構成しない（つまり「中央の折り返し点」に配置された）要素を「X」と呼んだ．松村が述べたように，キアスムスにはXが存在するタイプと存在しないタイプがある．Xが存在するタイプを concentric と呼ぶ場合があるとも松村は述べた．松村が提示した「キアスムス」,「対応」,「要素」,「X」の概念を，本稿では採用することにする．なお本稿では，Xの有無を区別せず，双方をキアスムスと呼ぶことにする．

続いてキアスムスの規模についてである．小さな規模のキアスムスのことをミクロキアスムス（micro-chiasmus）と呼び，比較的大きな規模のものをマクロキアスムス（macro-chiasmus）と呼ぶことがある．McCoy は次のように述べた[26].

> This type of inverted parallelism between corresponding components can take place at a micro level (within a single sentence) or at a macro level (within the broad flow of a large discourse).

つまり，McCoy は，一つのセンテンス次元での対応を持つキアスムスをミクロキアスムスと，大きなディスコース次元にわたる対応によるものをマクロキアスムスと区別したうえで定義した．Heath の分類も同様である[27]．しかしながら，こうした区別には恣意性が侵入する余地があり，厳密なものであるとはいえない．さらに，一つの物語全体あるいは書籍全体を覆う規模のキアスムスについては，書籍レベルのキアスムス（book level chiasmus あるいは book-level chiastic structure）などと呼ばれてきた．本稿では，これを「構造的キアスムス」と呼ぶことにする．とりわけ聖書テキストにおいて，旧約聖書のルツ記，新約聖書ではヤコブの手紙，ピリピ人への手紙，ピレモンへの手紙で構造的キアスムスがみとめられることについて Heath は次のように述べた[28].

> In some analyses of biblical material, macro-structures may be combined to form a book-level structure. For example, Bertram (1965) as well as Luter and Rigsby (1996) propose chiastic structuring for the whole book of Ruth. Three NT books for which a book-level chiastic structure is commonly proposed are the book of James (Bullinger 1914/1990:1847; Welch 1981c:212; Wendland

[9]本稿ではこれを「特徴④」と呼ぶ．

2007), the book of Philippians (Luter and Lee 1995; C.W. Davis 1999; Heil 2010) and the book of Philemon (Welch 1981c:225; Heil 2001; Wendland 2008:232; Wilt and Wendland 2008:351).

続いて，裏返し構造についてである．大林は，この構造について次のように述べた[1].

前半で問題となったいくつかのテーマが，後半においては前半と逆の順序で次々に展開し，かつ同じテーマが問題になっていても，後半ではいわば前半の否定ないし対立というような形をとっている．例えば，欠如というテーマが前半に出てくると，後半では欠如の除去という形になっている．早く言えば，ポップの方法は，構造分析における syntagmatic な見方と paradigmatic な見方の双方を統合する試みと言えよう．

かかる知見を受け，筆者は，以下の A と B の双方の特徴を有する構造を裏返し構造と定義した[15].

A : 物語の「前半」部分に配置された要素に対して，物語の「後半」に相当する要素が，「前半」の「否定」・「対立」もしくは「対照」としての関連性を持って出現する[10].
B : 物語の「後半」に配置された要素は，「前半」の対応する要素の配列順序とは逆の順番で出現する[11].

ここで，特徴 B については，構造的キアスムスの特徴でもある．本稿でも，上述の特徴 A および B の双方の特徴を備える場合，これを「裏返し構造」と呼ぶことにする．また，以上は，裏返し構造が，構造的キアスムスに対する下位概念であることを示している．換言すれば，従前の構造的キアスムスに対し，特徴 A も同時に当てはめられるとすれば，当該構造的キアスムスは裏返し構造でもある．

村松論文[25]は，キアスムスが主に聖書研究において使用されてきた用語であること，事実上は同一の構造を指すものでありながら，西洋古典学においてはリング・コンポジション（ring composition），ヒュステロン・プロテロン（hysteron proteron），インクルシオ（inclusio）などと呼ばれ，フォークロア研究においては折り返し構造（inverted structure），V 字構造などと呼ばれてきたことを指摘した．以上は，諸学問分野における「用語の多様性，不統一」に起因するものであり，「実は他分野においても同種のものが発案されており，相互にその存在を知らないままであるということ」，つまり学説史の空隙によるものであることによる[25]．裏返し構造の概念は，ポップの言及を端緒とし，大林により継承されてきたものであり，フォークロア研究の一部で使用されてきた用語である．聖書や西洋古典学の構造研究とは異なる文脈で研究されてきた．

4．テキスト

本稿では，新約聖書に収納された巻の一つである「コリント人への第二の手紙」をテキストとする．このテキストにキアスムスがみとめられるかについて，Welch は次のように述べた[29].

Two major letters of Paul which appear to contain little chiastic structure are 2 Corinthians and Romans. Why chiasmus is not evident in either of these letters is, of course, open to speculation. With respect to 2 Corinthians, it may be that the version which has survived into modern times has been edited, redacted or amalgamated by certain of Paul's successors who reworked or combined earlier Pauline writings. Or again, it may simply be that the substantial emphasis on biographical material in the letter precluded the author from utilizing a succinct chiastic (or any other) formal structure.

つまり，Welch の分析に基づけば，テキストにキアスムス構造そのものがほとんど使用されないことから，当該テキストが構造的キアスムスからなることについて，Welch は否定的な見解を示した．また，Blomberg は，テキストの 1 章から 7 章の範囲を覆う，規模の大きなマクロキアスムスが存在することを主張した[30]．ただし，当該テキストは 13 章 13 節まで存在するのであり，Blomberg が提示したキアスムスは，あくまでもマクロキアスムスであって構造的キアスムスとはいえない．したが

[10]本稿ではこれを「特徴 A」と呼ぶ.
[11]本稿ではこれを「特徴 B」と呼ぶ.

い，Blomberg は構造的キアスムスを示したわけではない．一方，村井は当該テキストに埋伏する構造的キアスムスを提示した[31]．ここで，当該構造的キアスムスが掲載された村井による資料を本稿では「村井資料」と呼ぶことにする．下記は，村井が提示した構造的キアスムスである[12]．なお，本稿では，これを「村井モデル」と呼ぶことにする．

1 挨拶・苦難と感謝 (1:1-11)
2 コリント訪問の計画 (1:12-20)
3 パウロの不安と安心 (1:21-2:17)
4 新しい契約の奉仕者 (3:1-18)
5 土の器に納めた宝 (4:1-18)
6 信仰に生きる (5:1-10)
7 和解させる任務 (5:11-6:10)
8 心を開く (6:11-7:4)
9 教会の悔い改めを喜ぶ (7:5-16)
10 自発的な施し (8:1-24)
11 エルサレムの信徒のための献金 (9:1-15)
12 パウロの誇り (10:1-18)
13 偽信徒たち (11:1-15)
14 信徒としてのパウロの労苦 (11:16-33)
15 主から示された事 (12:1-10)
16 コリントの教会に対するパウロの心遣い (12:11-19)
17 結びの言葉 (12:20-13:13)

さらに，村井資料では，村井モデルにおける各対応の関係性を次のように示した．なお，本稿では，かかる関係性を便宜上「テーマ」と呼ぶことにする．

対応	テーマ
1 と 17	挨拶
2 と 16	再訪の計画
3 と 15	キリストに結ばれた者
4 と 14	パウロの自己推薦
5 と 13	悪賢さを懸念する・宣教
6 と 12	造り上げられるもの
7 と 11	奉仕
8 と 10	苦難の中の喜び

例えば，1 と 17 の対応は，要素 1 と要素 17 により構成されている．また要素 1 と要素 17 はともに「挨拶」をテーマとしている．

以上をふまえ，本稿において，テキストが裏返し構造であるか否かの検証をおこなう際，最初に，村井モデルがキアスムスといえるかの予備的検証をおこなうことにする．続いて，テキストに特徴 A がみとめられるかの調査をおこなうことにする．

5．テキストはキアスムスといえるか

本節では，村井モデルに対して示した村井資料による説明をふまえ，このモデルがキアスムスといえるかの検証をおこなう．その際，村井モデルを構成する対応とテーマごとに再評価をおこなうことにする．

村井モデルは，「1 と 17」，「2 と 16」，「3 と 15」，「4 と 14」，「5 と 13」，「6 と 12」，「7 と 11」，「8 と 10」という合計 8 組の対応と，対応を持たない要素（つまり X）である「9」によって構成されている．なお，村井資料では，各対応とテーマに関する具体的な説明が施されているわけではない．したがい，村井資料においては，当該モデルに埋伏する（であろう）村井の意図が十分に言語化されているわけではない．本節では，テキストに対する村井モデルの区分をふまえ，村井資料に記された対応とテーマに対する筆者なりの解説および評価を述べるとともに，当該区分における筆者の見解も併記することにする．

◆1 と 17

村井資料によれば，要素 1 と要素 17 のテーマは「挨拶」である．また，要素 1 は「挨拶・苦難と感謝」であり，要素 17 は「結びの言葉」である．以下，要素 1 と要素 17 の聖書箇所をそれぞれ引用する．まずは，要素 1 に相当する箇所である 1 章 1 節から 11 節の範囲を次に示す．なお，引用文中の下線，アルファベット，太字，丸数字は筆者によるものである．

A 神の御旨によりキリスト・イエスの使徒となったパウロと，兄弟テモテとから，コリントにある神の教会，ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たちへ．わたしたちの父なる神と主イ

[12]あくまで筆者の管見が及ぶ範囲であるが，現時点で筆者は村井モデル以外の当該テキストにおける構造的キアスムスをみいだすことができていない．

エス・キリストから，恵みと平安とが，あなたがたにあるように．ほむべきかな，わたしたちの主イエス・キリストの父なる神，あわれみ深き父，①**慰め**に満ちたる神．神は，いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを②**慰め**て下さり，また，わたしたち自身も，神に③**慰め**ていただくその④**慰め**をもって，あらゆる患難の中にある人々を⑤**慰め**ることができるようにして下さるのである．それは，キリストの苦難がわたしたちに満ちあふれているように，わたしたちの受ける⑥**慰め**もまた，キリストによって満ちあふれているからである．わたしたちが患難に会うなら，B それはあなたがたの⑦**慰め**と救とのためであり，⑧**慰め**を受けるなら，それはあなたがたの⑨**慰め**のためであって，その⑩**慰め**は，わたしたちが受けているのと同じ苦難に耐えさせる力となるのである．だから，あなたがたに対していだいているわたしたちの望みは，動くことがない．あなたがたが，わたしたちと共に苦難にあずかっているように，⑪**慰め**にも共にあずかっていることを知っているからである．兄弟たちよ．わたしたちがアジヤで会った患難を，知らずにいてもらいたくない．わたしたちは極度に，耐えられないほど圧迫されて，生きる望みをさえ失ってしまい，心のうちで死を覚悟し，自分自身を頼みとしないで，死人をよみがえらせて下さる神を頼みとするに至った．C 神はこのような死の危険から，わたしたちを救い出して下さった，また救い出して下さるであろう．わたしたちは，神が今後も救い出して下さることを望んでいる．そして，あなたがたもまた祈をもって，ともどもに，わたしたちを助けてくれるであろう．これは多くの人々の願いによりわたしたちに賜わった恵みについて，多くの人が感謝をささげるようになるためである．

続いて，要素 17 に相当する 12 章 20 節から 13 章 13 節の範囲である．なお，引用文における下線，アルファベット，太字は筆者による．

わたしは，こんな心配をしている．わたしが行ってみると，もしかしたら，あなたがたがわたしの願っているような者ではなく，わたしも，あなたがたの願っているような者でないことになりはすまいか．もしかしたら，争い，ねたみ，怒り，党派心，そしり，ざんげん，高慢，騒乱などがありはすまいか．わたしが再びそちらに行った場合，わたしの神が，あなたがたの前でわたしに恥をかかせ，その上，多くの人が前に罪を犯していながら，その汚れと不品行と好色とを悔い改めていないので，わたしを悲しませることになりはすまいか．わたしは今，三度目にあなたがたの所に行こうとしている．すべての事がらは，ふたりか三人の証人の証言によって確定する．わたしは，前に罪を犯した者たちやその他のすべての人々に，二度目に滞在していたとき警告しておいたが，離れている今またあらかじめ言っておく．今度行った時には，決して**容赦はしない**．なぜなら，あなたがたが，キリストのわたしにあって語っておられるという証拠を求めているからである．キリストは，あなたがたに対して弱くはなく，あなたがたのうちにあって強い．すなわち，キリストは弱さのゆえに十字架につけられたが，神の力によって生きておられるのである．このように，わたしたちもキリストにあって弱い者であるが，あなたがたに対しては，神の力によって，キリストと共に生きるのである．B´ あなたがたは，はたして信仰があるかどうか，自分を反省し，自分を吟味するがよい．それとも，イエス・キリストがあなたがたのうちにおられることを，悟らないのか．もし悟らなければ，あなたがたは，にせものとして見捨てられる．しかしわたしは，自分たちが見捨てられた者ではないことを，知っていてもらいたい．C´ わたしたちは，あなたがたがどんな悪をも行わないようにと，神に祈る．それは，自分たちがほんとうの者であることを見せるためではなく，たといわたしたちが見捨てられた者のようになっても，あなたがたに良い行いをしてもらいたいためである．わたしたちは，真理に逆らっては何をする力もなく，真理にしたがえば力がある．わたしたちは，自分は弱くても，あなたがたが強ければ，それを喜ぶ．わたしたちが特に祈るのは，あなたがたが完全に良くなってくれることである．こういうわけで，離れていて以上のようなことを書いたのは，わたしがあなたがたの所に行ったとき，倒すためではなく高めるために主が授けて下さった権威を用いて，きびしい処置をする必要がないようにしたいためである．最後に，兄弟た

ちよ. いつも喜びなさい. 全き者となりなさい. 互に励まし合いなさい. 思いを一つにしなさい. 平和に過ごしなさい. そうすれば, 愛と平和の神があなたがたと共にいて下さるであろう. きよい接吻をもって互にあいさつをかわしなさい. A´聖徒たち一同が, あなたがたによろしく. 主イエス・キリストの恵みと, 神の愛と, 聖霊の交わりとが, あなたがた一同と共にあるように.

村井が言及したように, 単純に考えれば, 要素 1 は手紙の導入部位における挨拶であり, 要素 17 は手紙の結びとしての挨拶であるので, 対応関係にあるといえなくはない. 筆者としては, 村井の言及をふまえつつ, より詳細な検証をおこなうことにする.

まず, 要素 1 の範囲である下線 A には「神の御旨によりキリスト・イエスの使徒となったパウロと, 兄弟テモテとから, コリントにある神の教会, ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たちへ」と記されているように, 当該テキストの差出人と受取人が書かれている. 一方, 要素 17 にも差出人と受取人が, 下線 A´の箇所に「聖徒たち一同が, あなたがたによろしく. 主イエス・キリストの恵みと, 神の愛と, 聖霊の交わりとが, あなたがた一同と共にあるように」と記されている. 以下は, 双方の箇所における挨拶における, この手紙の差出人と受取人を対比した表である.

要素	差出人	受取人
1	パウロ, テモテ	コリント教会およびアカヤ全土の聖徒
17	聖徒たち一同	あなたがた

要素 1 と要素 17 では, 差出人と受取人がそれぞれ示されている. ここで, 要素 1 では, 手紙の差出人がパウロとテモテであることが明示されているのに対し, 要素 17 では聖徒たち一同とあり明示されていない. また, 要素 1 でも受取人がコリント教会およびアカヤ全土の聖徒と明示されているのだが, 要素 17 ではあなたがたとなっており明示されていない. つまり, 双方は村井が言及するように挨拶をテーマとしている. その一方で, 差出人と受取人の表記法においては対照的である[13].

村井モデルでは, 要素 1 が「苦難と感謝」である. 一方, 要素 17 では当該「苦難と感謝」に対応する言及がない.

要素 1 については, 例えば下線 B に「それはあなたがたの慰めと救とのためであり, 慰めを受けるなら, それはあなたがたの慰めのためであって, その慰めは, わたしたちが受けているのと同じ苦難に耐えさせる力となるのである」と述べられている. こうした記述を以て, 村井は「苦難と感謝」というキーワードでまとめたのであろうが, 筆者としては, 当該箇所を含め, 要素 1 の範囲では, 「慰め」という言葉が, 太字①から太字⑪で示すように 11 回使用されており, かかる「慰め」がコリント教会の信徒へも向けられていることから, パウロらによる当該信徒への態度としての「慰め」がキーワードであると考えた. これは, 信徒らが直面する状況を受容し慰めることにより, 苦しみを取り除こうとする意思表示を意味している. こうしたパウロの態度を, ここでは「慈愛」的態度と呼ぶ. それに対応する要素 17 では, 要素 1 と同様に, パウロらによるコリント信徒への態度が表明されているのであるが, 要素 1 とは異なり,「今度行った時には, 決して容赦はしない」と述べられているように, 太字で示した「容赦しない」態度が表明されている. さらに下線 B´には, 信徒らに対し反省を促し, もし悟ることができなければ見捨てられるという, パウロの断固とした態度が示されている. このようなパウロの態度をここでは「厳愛」的態度と呼ぶ. つまり, 双方は,「コリント教会信徒への態度」がテーマであるが, 態度の中身は「慈愛」と「厳愛」であり対照的である.

さらに, 村井モデルでは言及されて点であるが, 要素 1 と要素 17 ではともに「祈り」がテーマの一つとなっている. ここで, 要素 1 の C ではコリント教会の信徒に対しパウロらのために祈ることを要請しているのだが, 要素 17 の C´では逆に, パウロらが当該教会信徒のために祈っている.

以上をまとめれば, 要素 1 と要素 17 のテーマは①挨拶, ②コリント教会信徒への態度, ③祈りで

[13]ここでの指摘は, 差出人および受取人の表記法が対照的であるというものである. それに対し, 後述する関係性のすべての議論は, 表記法にみとめられるものではなく, 内容の対照性や, テーマの主体・客体・性質における対照性についてである. つまり, この箇所のみが形式論であり, 以降は実質論であるという違いがある. 以上をふまえれば, 当該箇所が他と同列に評価し得るか否かには議論の余地がある.

ある．また，①挨拶については，要素 1 では差出人と受取人が明示されているが要素 17 では明示されていない．②コリント教会信徒への態度については，要素 1 では慰めているが要素 17 では逆に容赦しない態度が表明されている．③祈りについては，要素 1 ではコリント教会信徒からパウロらに向けられているが，要素 17 では逆である．

◆2 と 16

要素 2 と要素 16 について，村井モデルでは，「コリント訪問の計画」と「コリントの教会に対するパウロの心遣い」の対応を提示しており，双方のテーマを「再訪の計画」としている．

以下，要素 2 に相当する箇所である 1 章 12 節から 20 節を引用する．

> さて，わたしたちがこの世で，ことにあなたがたに対し，人間の知恵によってではなく神の恵みによって，神の神聖と真実とによって行動してきたことは，実にわたしたちの誇であって，良心のあかしするところである．わたしたちが書いていることは，あなたがたが読んで理解できないことではない．それを完全に理解してくれるように，わたしは希望する．すでにある程度わたしたちを理解してくれているとおり，わたしたちの主イエスの日には，あなたがたがわたしたちの誇であるように，わたしたちもあなたがたの誇なのである．D この確信をもって，わたしたちはもう一度恵みを得させたいので，まずあなたがたの所に行き，それからそちらを通ってマケドニヤにおもむき，そして再びマケドニヤからあなたがたの所に帰り，あなたがたの見送りを受けてユダヤに行く計画を立てたのである．この計画を立てたのは，軽率なことであったであろうか．それとも，E 自分の計画を肉の思いによって計画したため，わたしの「しかり，しかり」が同時に「否，否」であったのだろうか．神の真実にかけて言うが，あなたがたに対するわたしの言葉は，「しかり」と同時に「否」というようなものではない．なぜなら，わたしたち，すなわち，わたしとシルワノとテモテとが，あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは，「しかり」となると同時に「否」となったのではない．そうではなく，「しかり」がイエスにおいて実現されたのである．なぜなら，神の約束はことごとく，彼において「しかり」となったからである．だから，わたしたちは，彼によって「アァメン」と唱えて，神に栄光を帰するのである．

続いて，要素 16 の箇所としての 12 章 11 節から 19 節である．

> E´わたしは愚か者となった．あなたがたが，むりにわたしをそうしてしまったのだ．実際は，あなたがたから推薦されるべきであった．というのは，たといわたしは取るに足りない者だとしても，あの大使徒たちにはなんら劣るところがないからである．わたしは，使徒たるの実を，しるしと奇跡と力あるわざとにより，忍耐をつくして，あなたがたの間であらわしてきた．いったい，あなたがたが他の教会よりも劣っている点は何か．ただ，このわたしがあなたがたに負担をかけなかったことだけではないか．この不義は，どうか，ゆるしてもらいたい．さて，D´わたしは今，三度目にあなたがたの所に行く用意をしている．しかし，負担はかけないつもりである．わたしの求めているのは，あなたがたの持ち物ではなく，あなたがた自身なのだから．いったい，子供は親のために財をたくわえて置く必要はなく，親が子供のためにたくわえて置くべきである．そこでわたしは，あなたがたの魂のためには，大いに喜んで費用を使い，また，わたし自身をも使いつくそう．わたしがあなたがたを愛すれば愛するほど，あなたがたからますます愛されなくなるのであろうか．わたしは，あなたがたに重荷を負わせなかったとしても，悪がしこくて，あなたがたからだまし取ったのだと，人は言う．わたしは，あなたがたにつかわした人たちのうちのだれかをとおして，あなたがたからむさぼり取っただろうか．わたしは，テトスに勧めてそちらに行かせ，また，かの兄弟を同行させた．テトスは，あなたがたからむさぼり取ったことがあろうか．わたしたちは，みな同じ心で歩いたではないか．同じ足並みで歩いたではないか．あなたがたは，わたしたちがあなたがたに対して弁明をしているのだと，今までずっと思ってきたであろう．しかし，わたしたちは，神のみまえでキリストにあって語っているのである．愛する者たちよ．これら

すべてのことは，あなたがたの徳を高めるためなのである．

要素 2 では，パウロが本来はコリントからマケドニヤに行き，再びコリントを訪問したうえでユダヤへ赴くというものであった（下線 D）のだが，それが実際には実行されなかったことと，それに対するパウロの弁明が書かれている（下線 E）．それに対し，要素 16 には，パウロがコリント教会の信徒に経済的な負担をかけなかったことへの弁明が述べられた（下線 E´）後，コリント教会に訪問することを約束している（下線 D´）．それ以降も，パウロによる弁明である．まず，村井が「再訪の計画」をテーマとしたように，たしかに，要素 2 と要素 16 の両方において，パウロによるコリント教会への再訪の計画が述べられている．ただし，要素 2 での計画は過去のものであり，すでに頓挫したのであるが，要素 16 での計画は未来に向けてのものであり，この時点では頓挫したものではない．さらに，要素 2 と要素 16 には，「パウロの弁明」が述べられている．要素 2 の弁明は，再訪が頓挫したこと，つまりパウロが実施しなかった行為に対するものである．対し，要素 16 の弁明は，コリント教会信徒に経済的な負担をかけなかったこと，つまりパウロが実施した行為に対するものである．従い，以上のように，要素 2 の弁明は，不実施行為に対するものであるのに対し，要素 16 の弁明は，実施行為に対するものである．

要素	再訪	パウロの弁明
2	過去・頓挫	不実施行為
16	未来・未頓挫	実施行為

◆3 と 15

要素 3 と要素 15 について，村井は，「パウロの不安と安心」と「主から示された事」による対応を提示した．なお，双方の村井によるテーマを「キリストに結ばれた者」とした．つまり，要素 3 では，パウロがキリストにより結ばれたものであり，要素 15 では，かかるキリストに結ばれた者の過去について述べられていることが端的に述べられており，これを論拠としたといえる．

以下，要素 3 の箇所である 1 章 21 節から 2 章 17 節を引用する．なお，文中の下線，アルファベット，太字，丸番号は筆者によるものである．

F あなたがたと共にわたしたちを，キリストのうちに堅くささえ，油をそそいで下さったのは，神である．神はまた，わたしたちに証印をおし，その保証として，わたしたちの心に御霊を賜わったのである．わたしは自分の魂をかけ，神を証人に呼び求めて言うが，わたしがコリントに行かないでいるのは，あなたがたに対して寛大でありたいためである．わたしたちは，あなたがたの信仰を支配する者ではなく，あなたがたの喜びのために共に働いている者にすぎない．あなたがたは，信仰に堅く立っているからである．そこでわたしは，あなたがたの所に再び悲しみをもって行くことはすまいと，決心したのである．もしあなたがたを悲しませるとすれば，わたしが悲しませているその人以外に，だれがわたしを喜ばせてくれるのか．このような事を書いたのは，わたしが行く時，わたしを喜ばせてくれるはずの人々から，悲しい思いをさせられたくないためである．わたし自身の喜びはあなたがた全体の喜びであることを，あなたがたすべてについて確信しているからである．わたしは大きな患難と心の憂いの中から，多くの涙をもってあなたがたに書きおくった．それは，あなたがたを悲しませるためではなく，あなたがたに対してあふれるばかりにいだいているわたしの愛を，知ってもらうためであった．しかし，もしだれかが人を悲しませたとすれば，それはわたしを悲しませたのではなく，控え目に言うが，ある程度，あなたがた一同を悲しませたのである．その人にとっては，多数の者から受けたあの処罰でもう十分なのだから，あなたがたはむしろ彼を①**ゆるし**，また慰めてやるべきである．そうしないと，その人はますます深い悲しみに沈むかも知れない．そこでわたしは，彼に対して愛を示すように，あなたがたに勧める．わたしが書きおくったのも，あなたがたがすべての事について従順であるかどうかを，ためすためにほかならなかった．もしあなたがたが，何かのことについて人を②**ゆるす**なら，わたしもまた③**ゆるそう**．そして，もしわたしが何かのことで④**ゆるした**とすれば，それは，あなたがたのためにキリストのみまえで⑤**ゆるした**のである．G そうするのは，サタンに欺かれることのないためである．わたしたちは，彼の策略を知らないわけではない．さて，キリスト

の福音のためにトロアスに行ったとき，わたしのために主の門が開かれたにもかかわらず，兄弟テトスに会えなかったので，わたしは気が気でなく，人々に別れて，マケドニヤに出かけて行った．しかるに，神は感謝すべきかな．神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き，わたしたちをとおしてキリストを知る知識のかおりを，至る所に放って下さるのである．わたしたちは，救われる者にとっても滅びる者にとっても，神に対するキリストのかおりである．後者にとっては，死から死に至らせるかおりであり，前者にとっては，いのちからいのちに至らせるかおりである．いったい，このような任務に，だれが耐え得ようか．しかし，わたしたちは，多くの人のように神の言を売物にせず，真心をこめて，神につかわされた者として神のみまえで，キリストにあって語るのである．

続いて，要素 15 の箇所である 12 章 1 節から 10 節を引用する．なお，引用文中の下線，アルファベットは筆者によるものである．

わたしは誇らざるを得ないので，無益ではあろうが，主のまぼろしと啓示とについて語ろう．わたしはキリストにあるひとりの人を知っている．F´この人は十四年前に第三の天にまで引き上げられた――それが，からだのままであったか，わたしは知らない．からだを離れてであったか，それも知らない．神がご存じである．この人が――それが，からだのままであったか，からだを離れてであったか，わたしは知らない．神がご存じである――パラダイスに引き上げられ，そして口に言い表わせない，人間が語ってはならない言葉を聞いたのを，わたしは知っている．わたしはこういう人について誇ろう．しかし，わたし自身については，自分の弱さ以外には誇ることをすまい．もっとも，わたしが誇ろうとすれば，ほんとうの事を言うのだから，愚か者にはならないだろう．しかし，それはさし控えよう．わたしがすぐれた啓示を受けているので，わたしについて見たり聞いたりしている以上に，人に買いかぶられるかも知れないから．G´そこで，高慢にならないように，わたしの肉体に一つのとげが与えられた．それは，高慢にならないように，わたしを打つサタンの使なのである．このことについて，わたしは彼を離れ去らせて下さるようにと，三度も主に祈った．ところが，主が言われた，「わたしの恵みはあなたに対して十分である．わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」．それだから，キリストの力がわたしに宿るように，むしろ，喜んで自分の弱さを誇ろう．だから，わたしはキリストのためならば，弱さと，侮辱と，危機と，迫害と，行き詰まりとに甘んじよう．なぜなら，わたしが弱い時にこそ，わたしは強いからである．

ここで，要素 3 においては，パウロが以前に送付したもう一つの手紙の内容への言及がある．つまり，以前の手紙では，コリント教会に所属する信徒が近親相姦を犯した信徒がおり[32]，この信徒との交流を拒絶するようにとパウロが指示した．コリント教会がかかる拒絶を実行したところ，当該教会と当該信徒は深い悲しみにつつまれた．かかる現実をふまえ，パウロは以前の手紙を送った意味を説明し，その信徒を赦すことを要請した[14]．その際，かかる赦しの権限が付与された根拠を，パウロがキリストと結ばれていることにおいた．なお，当該赦しが言及された際，下線 G で示すようにパウロは，「そうするのは，サタンに欺かれることのないためである．わたしたちは，彼の策略を知らないわけではない」と述べた．ここで，サタンの策略が何かについて，パウロは具体的に述べていないが，文脈から判断すれば，かかる近親相姦を犯した信徒をきっかけとした一連の出来事を指しているといえる．

一方，要素 15 では，パウロがキリストに結ばれていることに関する個人的体験が述べられている．パウロは「第三の天」まで引き上げられ，「すぐれた啓示」を受けた．一方，下線 G´で示すように，高慢にならないための肉体への「一つのとげ」が付与された．かかる「とげ」について，パウロは「わたしを打つサタンの使」と表現した．パウロはこの「とげ」が除去されることを祈ったがかなわなかった．むしろこの「とげ」はパウロに謙虚さをもたらした．

たしかに，村井が言及したように，要素 3 と要

[14]当該引用部分では，「ゆるし」に関わる文言が 5 回表記されている．かかる点は，当該箇所が「赦し」を強調していることを指す証左でもある．

素 15 は，ともに「キリストに結ばれた者」への言及がある（F と F´）．こうした村井の言及を前提に，筆者は，双方の共通点を以下に示す一連の成長プロセスであると考えた．まず，双方とも，異質な存在（サタン的な存在）が侵入することにより調和を失う．そのうえで，これを除去しようとするが頓挫し，ついには受容することとなる．それにより組織あるいは個人の成長がもたらされたのである．こうした一連の成長プロセスの前提にあるものが，パウロが「キリストに結ばれた者」であるということである．

つまり，要素 3 でパウロは，自身がコリントに行かないことの理由が，コリント教会の信徒らに対し寛大でありたいためであること，パウロらが，信徒らの信仰の支配者ではないこと，あくまでも信徒らの喜びを目的に働いていることであることを述べたうえで，信徒らに対し，かかる「近親相姦を犯した信徒」への赦しと受容を要請した．つまり，ここでのパウロによる，「近親相姦を犯した信徒」の受容の要請はコリント教会の信徒一人ひとり（延いてはコリント教会の総意）に向けられたものである．さらに，かかる受容が実践されることにより，信徒ら（延いてはコリント教会）は「サタンに欺かれることのない」者に成長するのである．それに対し，要素 15 ではパウロ個人が対象である．つまり，肉体に与えられた「とげ」の受容が，パウロ個人の成長をもたらした．以上をふまえれば，要素 3 と要素 15 のテーマは，「キリストに結ばれた者」という以上に，むしろ「成長プロセス」であるといえる．

要素	成長プロセス
3	コリント教会
15	パウロ個人

◆4 と 14

村井は要素 4 と要素 14 を「新しい契約の奉仕者」と「信徒としてのパウロの労苦」という文言で表現し，双方のテーマを「パウロの自己推薦」であるとした．

要素 4 の，テキストにおける範囲は 3 章 1 節から 18 節である．なお，引用文における下線とアルファベットは筆者によるものである．

わたしたちは，またもや，自己推薦をし始めているのだろうか．それとも，ある人々のように，あなたがたにあてた，あるいは，あなたがたからの推薦状が必要なのだろうか．H わたしたちの推薦状は，あなたがたなのである．それは，わたしたちの心にしるされていて，すべての人に知られ，かつ読まれている．そして，あなたがたは自分自身が，わたしたちから送られたキリストの手紙であって，墨によらず生ける神の霊によって書かれ，石の板にではなく人の心の板に書かれたものであることを，はっきりとあらわしている．こうした確信を，わたしたちはキリストにより神に対していだいている．もちろん，自分自身で事を定める力が自分にある，と言うのではない．わたしたちのこうした力は，神からきている．神はわたしたちに力を与えて，新しい契約に仕える者とされたのである．それは，文字に仕える者ではなく，霊に仕える者である．文字は人を殺し，霊は人を生かす．もし石に彫りつけた文字による死の務が栄光のうちに行われ，そのためイスラエルの子らは，モーセの顔の消え去るべき栄光のゆえに，その顔を見つめることができなかったとすれば，まして霊の務は，はるかに栄光あるものではなかろうか．もし罪を宣告する務が栄光あるものだとすれば，義を宣告する務は，はるかに栄光に満ちたものである．そして，すでに栄光を受けたものも，この場合，はるかにまさった栄光のまえに，その栄光を失ったのである．もし消え去るべきものが栄光をもって現れたのなら，まして永存すべきものは，もっと栄光のあるべきものである．こうした望みをいだいているので，わたしたちは思いきって大胆に語り，そしてモーセが，消え去っていくものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして，顔におおいをかけたようなことはしない．実際，彼らの思いは鈍くなっていた．今日に至るまで，彼らが古い契約を朗読する場合，その同じおおいが取り去られないままで残っている．それは，キリストにあってはじめて取り除かれるのである．今日に至るもなお，モーセの書が朗読されるたびに，おおいが彼らの心にかかっている．しかし主に向く時には，そのおおいは取り除かれる．主は霊である．そして，主の霊のあるところには，自由がある．わたしたちはみな，顔おおいなしに，主の栄光を鏡に映すように見つつ，栄光から栄光へと，

主と同じ姿に変えられていく．これは霊なる主の働きによるのである．

一方，要素 14 の範囲は，11 章 16 節から 33 節である．ここで，引用文における下線とアルファベットは筆者によるものである．

繰り返して言うが，だれも，わたしを愚か者と思わないでほしい．もしそう思うなら，愚か者あつかいにされてもよいから，わたしにも，少し誇らせてほしい．いま言うことは，主によって言うのではなく，愚か者のように，自分の誇とするところを信じきって言うのである．H´多くの人が肉によって誇っているから，わたしも誇ろう．あなたがたは賢い人たちなのだから，喜んで愚か者を忍んでくれるだろう．実際，あなたがたは奴隷にされても，食い倒されても，略奪されても，いばられても，顔をたたかれても，それを忍んでいる．言うのも恥ずかしいことだが，わたしたちは弱すぎたのだ．H´もしある人があえて誇るなら，わたしは愚か者になって言うが，わたしもあえて誇ろう．彼らはヘブル人なのか．わたしもそうである．彼らはイスラエル人なのか．わたしもそうである．彼らはアブラハムの子孫なのか．わたしもそうである．彼らはキリストの僕なのか．わたしは気が狂ったようになって言う，わたしは彼ら以上にそうである．苦労したことはもっと多く，投獄されたこともっと多く，むち打たれたことは，はるかにおびただしく，死に面したこともしばしばあった．ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度，ローマ人にむちで打たれたことが三度，石で打たれたことが一度，難船したことが三度，そして，一昼夜，海の上を漂ったこともある．幾たびも旅をし，川の難，盗賊の難，同国民の難，異邦人の難，都会の難，荒野の難，海上の難，にせ兄弟の難に会い，労し苦しみ，たびたび眠られぬ夜を過ごし，飢えかわき，しばしば食物がなく，寒さに凍え，裸でいたこともあった．なおいろいろの事があった外に，日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある．だれかが弱っているのに，わたしも弱らないでおれようか．だれかが罪を犯しているのに，わたしの心が燃えないでおれようか．もし誇らねばならないのなら，わたしは自分の弱さを誇ろう．永遠にほむべき，主イエス・キリストの父なる神は，わたしが偽りを言っていないことを，ご存じである．ダマスコでアレタ王の代官が，わたしを捕えるためにダマスコ人の町を監視したことがあったが，その時わたしは窓から町の城壁づたいに，かごでつり降ろされて，彼の手からのがれた．

要素 4 において，コリント教会に対し，本来は現実の推薦状が必要であるにもかかわらず，パウロにはこれが不要であり，かかる推薦状はコリント教会の信徒の心のなかに記されていることをパウロが主張した（下線 H）．また，かつての契約が文字によるものであったが，これからは心に刻まれた契約であるべきことの主張もおこなった．つまり，要素 4 では，パウロはコリント教会信徒からの推薦を要求するが，あくまでも内心による（つまり無形の）ものである．

一方，要素 14 では，パウロが自身をコリント教会信徒に対して誇るのであるが，誇る観点は，パウロは「多くの人が肉によって誇っているから，わたしも誇ろう」（下線 H´）と述べたことにあるように，あくまでもパウロ自身の過去の外面的な経歴（つまり有形のもの）である（下線 H´）．

要素 4 と要素 14 は，ともに，「パウロの自己推薦」をテーマとしているのであるが，要素 4 が無形であるのに対し，要素 14 ではパウロの業績という有形のものであるという違いがある．

要素	パウロの自己推薦
4	無形
14	有形

◆5 と 13

要素 5 と要素 13 について，村井は「土の器に納めた宝」と「偽信徒たち」という文言で表した．なお，そのテーマは「悪賢さを懸念する」および「宣教」である．

以下，要素 5 の範囲である 4 章 1 節から 18 節を引用する．なお引用文中の下線とアルファベットは筆者によるものである．

このようにわたしたちは，あわれみを受けてこの務についているのだから，落胆せずに，I 恥ずべき隠れたことを捨て去り，悪巧みによって歩

かず，神の言を曲げず，真理を明らかにし，神のみまえに，すべての人の良心に自分を推薦するのである．もしわたしたちの福音がおおわれているなら，滅びる者どもにとっておおわれているのである．彼らの場合，この世の神が不信の者たちの思いをくらませて，神のかたちであるキリストの栄光の福音の輝きを，見えなくしているのである．しかし，わたしたちは自分自身を宣べ伝えるのではなく，主なるキリスト・イエスを宣べ伝える．わたしたち自身は，ただイエスのために働くあなたがたの僕にすぎない．「やみの中から光が照りいでよ」と仰せになった神は，キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために，わたしたちの心を照して下さったのである．しかしわたしたちは，この宝を土の器の中に持っている．その測り知れない力は神のものであって，わたしたちから出たものでないことが，あらわれるためである．わたしたちは，四方から患難を受けても窮しない．途方にくれても行き詰まらない．迫害に会っても見捨てられない．倒されても滅びない．いつもイエスの死をこの身に負うている．それはまた，イエスのいのちが，この身に現れるためである．わたしたち生きている者は，イエスのために絶えず死に渡されているのである．それはイエスのいのちが，わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためである．こうして，死はわたしたちのうちに働き，いのちはあなたがたのうちに働くのである．「わたしは信じた．それゆえに語った」としるしてあるとおり，それと同じ信仰の霊を持っているので，わたしたちも信じている．それゆえに語るのである．それは，主イエスをよみがえらせたかたが，わたしたちをもイエスと共によみがえらせ，そして，あなたがたと共にみまえに立たせて下さることを，知っているからである．すべてのことは，あなたがたの益であって，恵みがますます多くの人に増し加わるにつれ，感謝が満ちあふれて，神の栄光となるのである．だから，わたしたちは落胆しない．たといわたしたちの外なる人は滅びても，内なる人は日ごとに新しくされていく．なぜなら，このしばらくの軽い患難は働いて，永遠の重い栄光を，あふれるばかりにわたしたちに得させるからである．わたしたちは，見えるものにではなく，見えないものに目を注ぐ．見えるものは一時的であり，見えないものは永遠につづくのである．

続いて，要素 13 の範囲 11 章 1 節から 15 節である．ここでの下線およびアルファベットは筆者による．

わたしが少しばかり愚かなことを言うのを，どうか，忍んでほしい．もちろん忍んでくれるのだ．わたしは神の熱情をもって，あなたがたを熱愛している．あなたがたを，きよいおとめとして，ただひとりの男子キリストにささげるために，婚約させたのである．I´ただ恐れるのは，エバがへびの悪巧みで誘惑されたように，あなたがたの思いが汚されて，キリストに対する純情と貞操とを失いはしないかということである．というのは，もしある人がきて，わたしたちが宣べ伝えもしなかったような異なるイエスを宣べ伝え，あるいは，あなたがたが受けたことのない違った霊を受け，あるいは，受けいれたことのない違った福音を聞く場合に，あなたがたはよくもそれを忍んでいる．事実，わたしは，あの大使徒たちにいささかも劣ってはいないと思う．たとい弁舌はつたなくても，知識はそうでない．わたしは，事ごとに，いろいろの場合に，あなたがたに対してそれを明らかにした．それとも，あなたがたを高めるために自分を低くして，神の福音を価なしにあなたがたに宣べ伝えたことが，罪になるのだろうか．わたしは他の諸教会をかすめたと言われながら得た金で，あなたがたに奉仕し，あなたがたの所にいて貧乏をした時にも，だれにも負担をかけたことはなかった．わたしの欠乏は，マケドニヤからきた兄弟たちが，補ってくれた．こうして，わたしはすべての事につき，あなたがたに重荷を負わせまいと努めてきたし，今後も努めよう．わたしの内にあるキリストの真実にかけて言う，この誇りがアカヤ地方で封じられるようなことは，決してない．なぜであるか．わたしがあなたがたを愛していないからか．それは，神がご存じである．しかし，I´わたしは，現在していることを今後もしていこう．それは，わたしたちと同じように誇りうる立ち場を得ようと機会をねらっている者どもから，その機会を断ち切ってしまうためである．こういう人々はにせ使徒，人

をだます働き人であって，キリストの使徒に擬装しているにすぎないからである．しかし，驚くには及ばない．サタンも光の天使に擬装するのだから．だから，たといサタンの手下どもが，義の奉仕者のように擬装したとしても，不思議ではない．彼らの最期は，そのしわざに合ったものとなろう．

要素 5 では，パウロにおける宣教の姿勢が述べられている．つまり，「恥ずべき隠れたことを捨て去り，悪巧みによって歩かず」，真理を明らかに伝えるべきことが述べられている（下線 I）．ここでの「悪巧み」とは，福音そのものを恥ずべきものと認識し，方便で話をすることを指しているといえる．また，村井が言及した「土の器に納めた宝」とは信徒に内在したイエスを指しているといえる．以上より，要素 5 は，信徒が悪賢く（つまり方便で）「宣教」をおこなうことに対するパウロの拒絶が述べられた箇所である．

一方，要素 13 では，かつてエバが「悪巧み」により誘惑されたことを例示し，「受けいれたことのない違った福音」が「にせ使徒」によりもたらされていること，かかる「にせ使徒」が「キリストの使徒に擬装しているにすぎない」こと，彼らの「宣教」を拒絶すべきことがパウロにより述べられている（下線 I´）．つまり，要素 13 は，「にせ信徒」による悪賢い「宣教」に対するパウロの拒絶である．

以上のように，要素 5 と要素 13 では，ともに，「悪巧み」に基づく教説の流布を拒絶すべきことが述べられていることから，村井は，当該箇所のテーマが「悪賢さを懸念する」ことと「宣教」であると述べた．本稿では，これを「悪賢い宣教の拒絶」とすることにする．要素 5 と要素 13 ではともに「悪賢い宣教の拒絶」をテーマとしているのだが，前者は信者によるものであるのに対し後者はにせ使徒によるものである．

要素	悪賢い宣教の拒絶
5	信者
13	にせ使徒

◆6 と 12

要素 6 と要素 12 は，村井によれば「信仰に生きる」と「パウロの誇り」が対応しており，テーマは「造り上げられるもの」である．

要素 6 の範囲は 5 章 1 節から 10 節である．ここでの下線とアルファベットは筆者によるものである．

J わたしたちの住んでいる地上の幕屋がこわれると，神からいただく建物，すなわち天にある，人の手によらない永遠の家が備えてあることを，わたしたちは知っている．そして，天から賜わるそのすみかを，上に着ようと切に望みながら，この幕屋の中で苦しみもだえている．それを着たなら，裸のままではいないことになろう．この幕屋の中にいるわたしたちは，重荷を負って苦しみもだえている．それを脱ごうと願うからではなく，その上に着ようと願うからであり，それによって，死ぬべきものがいのちにのまれてしまうためである．わたしたちを，この事にかなう者にして下さったのは，神である．そして，神はその保証として御霊をわたしたちに賜わったのである．だから，わたしたちはいつも心強い．そして，肉体を宿としている間は主から離れていることを，よく知っている．わたしたちは，見えるものによらないで，信仰によって歩いているのである．それで，わたしたちは心強い．そして，K むしろ肉体から離れて主と共に住むことが，願わしいと思っている．そういうわけだから，肉体を宿としているにしても，それから離れているにしても，ただ主に喜ばれる者となるのが，心からの願いである．なぜなら，わたしたちは皆，キリストのさばきの座の前にあらわれ，善であれ悪であれ，自分の行ったことに応じて，それぞれ報いを受けねばならないからである．

続いて，要素 12 の箇所である 10 章 1 節から 18 節を引用する．なお，引用文における下線とアルファベットは筆者による．

さて，「あなたがたの間にいて面と向かってはおとなしいが，離れていると，気が強くなる」このパウロが，キリストの優しさ，寛大さをもって，あなたがたに勧める．わたしたちを肉に従って歩いているかのように思っている人々に対しては，わたしは勇敢に行動するつもりであるが，あなたがたの所では，どうか，そのような思いきったことをしないですむようでありたい．わたしたちは，肉にあって歩いてはいるが，肉に

従って戦っているのではない．わたしたちの戦いの武器は，肉のものではなく，神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである．わたしたちはさまざまな議論を破り，神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし，すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ，そして，あなたがたが完全に服従した時，すべて不従順な者を処罰しようと，用意しているのである．あなたがたは，うわべの事だけを見ている．J´もしある人が，キリストに属する者だと自任しているなら，その人はもう一度よく反省すべきである．その人がキリストに属する者であるように，わたしたちもそうである．たとい，あなたがたを倒すためではなく高めるために主からわたしたちに賜わった権威について，わたしがやや誇りすぎたとしても，恥にはなるまい．ただ，わたしは，手紙であなたがたをおどしているのだと，思われたくはない．人は言う，「彼の手紙は重味があって力強いが，会って見ると外見は弱々しく，話はつまらない」．そういう人は心得ているがよい．わたしたちは，離れていて書きおくる手紙の言葉どおりに，一緒にいる時でも同じようにふるまうのである．わたしたちは，自己推薦をするような人々と自分を同列においたり比較したりはしない．彼らは仲間同志で互にはかり合ったり，互に比べ合ったりしているが，知恵のないしわざである．しかし，K´わたしたちは限度をこえて誇るようなことはしない．むしろ，神が割り当てて下さった地域の限度内で誇るにすぎない．わたしはその限度にしたがって，あなたがたの所まで行ったのである．わたしたちは，あなたがたの所まで行けない者であるかのように，むりに手を延ばしているのではない．事実，わたしたちが最初にキリストの福音を携えて，あなたがたの所までも行ったのである．わたしたちは限度をこえて，他人の働きを誇るようなことはしない．ただ，あなたがたの信仰が成長するにつれて，わたしたちの働きの範囲があなたがたの中でますます大きくなることを望んでいる．こうして，わたしたちはほかの人の地域ですでになされていることを誇ることはせずに，あなたがたを越えたさきざきにまで，福音を宣べ伝えたい．誇る者は主を誇るべきである．自分で自分を推薦する人ではなく，主に推薦される人こそ，確かな人なのである．

要素 6 では，「わたしたちの住んでいる地上の幕屋がこわれると，神からいただく建物，すなわち天にある，人の手によらない永遠の家が備えてあることを，わたしたちは知っている」（下線 J）と述べ，他界後に神が備えた世界についてパウロが言及している．また，「むしろ肉体から離れて主と共に住むことが，願わしいと思っている」（下線 K）と述べ，かかる他界後の世界を待望していることが書かれている．つまり，神により造り上げられたものは「他界後の世界」である．一方の要素 12 では，まず，「もしある人が，キリストに属する者だと自任しているなら，その人はもう一度よく反省すべきである．その人がキリストに属する者であるように，わたしたちもそうである．たとい，あなたがたを倒すためではなく高めるために主からわたしたちに賜わった権威について，わたしがやや誇りすぎたとしても，恥にはなるまい」（下線 J´）と書かれているように，パウロ自身が神により権威を授かり，かつ，造り上げられた存在であることが述べられている．そのうえで，かかる活動舞台については，「わたしたちは限度をこえて誇るようなことはしない．むしろ，神が割り当てて下さった地域の限度内で誇るにすぎない．わたしはその限度にしたがって，あなたがたの所まで行ったのである」（下線 K´）と書かれている通り，「現実世界」における神が定めた範囲に限定される．双方は，村井の指摘のように「造り上げられるもの」をテーマとしているが，それぞれは「信仰に生きる」と「パウロの誇り」という以上に，造り上げられたものは「他界後の世界」と「パウロ」が対比されているといえる．また，要素 12 でのパウロの活動舞台は「現実世界」の定められた範囲に限定されている．

要素	造り上げられるもの
6	他界後の世界
12	パウロ

◆7 と 11

要素 7 と要素 11 は，村井資料によれば，「和解させる任務」と「エルサレムの信徒のための献金」の対応であり，テーマは「奉仕」である．

要素 7 の範囲は，5 章 11 節から 6 章 10 節であ

る．以下に引用文を記す．引用文における下線およびアルファベットは筆者による．

このようにわたしたちは，主の恐るべきことを知っているので，人々に説き勧める．わたしたちのことは，神のみまえには明らかになっている．さらに，あなたがたの良心にも明らかになるようにと望む．わたしたちは，あなたがたに対して，またもや自己推薦をしようとするのではない．ただわたしたちを誇る機会を，あなたがたに持たせ，心を誇るのではなくうわべだけを誇る人々に答えうるようにさせたいのである．もしわたしたちが，気が狂っているのなら，それは神のためであり，気が確かであるのなら，それはあなたがたのためである．L なぜなら，キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである．わたしたちはこう考えている．ひとりの人がすべての人のために死んだ以上，すべての人が死んだのである．そして，彼がすべての人のために死んだのは，生きている者がもはや自分のためにではなく，自分のために死んでよみがえったかたのために，生きるためである．それだから，わたしたちは今後，だれをも肉によって知ることはすまい．かつてはキリストを肉によって知っていたとしても，今はもうそのような知り方をすまい．だれでもキリストにあるならば，その人は新しく造られた者である．古いものは過ぎ去った，見よ，すべてが新しくなったのである．しかし，すべてこれらの事は，神から出ている．神はキリストによって，わたしたちをご自分に和解させ，かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった．M すなわち，神はキリストにおいて世をご自分に和解させ，その罪過の責任をこれに負わせることをしないで，わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである．神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから，わたしたちはキリストの使者なのである．そこで，キリストに代って願う，神の和解を受けなさい．神はわたしたちの罪のために，罪を知らないかたを罪とされた．それは，わたしたちが，彼にあって神の義となるためなのである．わたしたちはまた，神と共に働く者として，あなたがたに勧める．神の恵みをいたずらに受けてはならない．神はこう言われる，「わたしは，恵みの時にあなたの願いを聞きいれ，救の日にあなたを助けた」．見よ，今は恵みの時，見よ，今は救の日である．この務がそしりを招かないために，わたしたちはどんな事にも，人につまずきを与えないようにし，かえって，あらゆる場合に，神の僕として，自分を人々にあらわしている．すなわち，極度の忍苦にも，患難にも，危機にも，行き詰まりにも，むち打たれることにも，入獄にも，騒乱にも，労苦にも，徹夜にも，飢餓にも，真実と知識と寛容と，慈愛と聖霊と偽りのない愛と，真理の言葉と神の力とにより，左右に持っている義の武器により，ほめられても，そしられても，悪評を受けても，好評を博しても，神の僕として自分をあらわしている．わたしたちは，人を惑わしているようであるが，しかも真実であり，人に知られていないようであるが，認められ，死にかかっているようであるが，見よ，生きており，懲らしめられているようであるが，殺されず，悲しんでいるようであるが，常に喜んでおり，貧しいようであるが，多くの人を富ませ，何も持たないようであるが，すべての物を持っている．

続いて，要素 11 である．範囲は，9 章 1 節から 15 節である．

L´聖徒たちに対する援助については，いまさら，あなたがたに書きおくる必要はない．わたしは，あなたがたの好意を知っており，そのために，あなたがたのことをマケドニヤの人々に誇って，アカヤでは昨年以来，すでに準備をしているのだと言った．そして，M´あなたがたの熱心は，多くの人を奮起させたのである．わたしが兄弟たちを送ることにしたのは，あなたがたについてわたしたちの誇ったことが，この場合むなしくならないで，わたしが言ったとおり準備していてもらいたいからである．そうでないと，万一マケドニヤ人がわたしと一緒に行って，準備ができていないのを見たら，あなたがたはもちろん，わたしたちも，かように信じきっていただけに，恥をかくことになろう．だから，わたしは兄弟たちを促して，あなたがたの所へ先に行かせ，以前あなたがたが約束していた贈り物の準備をさせておくことが必要だと思った．それをしぶりながらではなく，心をこめて用意していてほしい．わたしの考えはこうである．少し

しかまかない者は，少ししか刈り取らず，豊かにまく者は，豊かに刈り取ることになる．各自は惜しむ心からでなく，また，しいられてでもなく，自ら心で決めたとおりにすべきである．神は喜んで施す人を愛して下さるのである．神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え，あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ，すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである．「彼は貧しい人たちに散らして与えた．その義は永遠に続くであろう」と書いてあるとおりである．種まく人に種と食べるためのパンとを備えて下さるかたは，あなたがたにも種を備え，それをふやし，そしてあなたがたの義の実を増して下さるのである．こうして，あなたがたはすべてのことに豊かになって，惜しみなく施し，その施しはわたしたちの手によって行われ，神に感謝するに至るのである．なぜなら，この援助の働きは，聖徒たちの欠乏を補えだけではなく，神に対する多くの感謝によってますます豊かになるからである．すなわち，この援助を行った結果として，あなたがたがキリストの福音の告白に対して従順であることや，彼らにも，すべての人にも，惜しみなく施しをしていることがわかってきて，彼らは神に栄光を帰し，そして，あなたがたに賜わったきわめて豊かな神の恵みのゆえに，あなたがたを慕い，あなたがたのために祈るのである．言いつくせない賜物のゆえに，神に感謝する．

要素 7 では，神から受けた内面的な恩恵を無駄にしてはいけないこと（下線 L），それを周囲に伝播し和解のための奉仕が必要であること（下線 M）が述べられている．一方，要素 11 では，献金による奉仕をおこなうことが奨励（例えば L´）されている．同時に，こうした奉仕がもたらした効果（下線 M´）も示されている．つまり，双方のテーマは村井が言及したように「奉仕」である．また，「和解させる任務」は精神的な奉仕であるのに対し，「エルサレムの信徒のための献金」は外面的な奉仕である．

要素	奉仕
7	精神的
11	外面的

◆8 と 10

要素 8 と要素 10 は，村井資料によれば，「心を開く」と「自発的な施し」であり，テーマは「苦難の中の喜び」である．

要素 8 の範囲は 6 章 11 節から 7 章 4 節である．以下，当該箇所を引用する．

コリントの人々よ．あなたがたに向かってわたしたちの口は開かれており，わたしたちの心は広くなっている．あなたがたは，わたしたちに心をせばめられていたのではなく，自分で心をせばめていたのだ．N①わたしは子供たちに対するように言うが，どうかあなたがたの方でも心を広くして，わたしに応じてほしい．不信者と，つり合わないくびきを共にするな．義と不義となんの係わりがあるか．光とやみとなんの交わりがあるか．キリストとベリアルとなんの調和があるか．信仰と不信仰となんの関係があるか．神の宮と偶像となんの一致があるか．わたしたちは，生ける神の宮である．神がこう仰せになっている，「わたしは彼らの間に住み，かつ出入りをするであろう．そして，わたしは彼らの神となり，彼らはわたしの民となるであろう」．だから，「彼らの間から出て行き，彼らと分離せよ，と主は言われる．そして，汚れたものに触てはならない．触なければ，わたしはあなたがたを受けいれよう．そしてわたしは，あなたがたの父となり，あなたがたは，わたしのむすこ，むすめとなるであろう．全能の主が，こう言われる」．愛する者たちよ．わたしたちは，このような約束を与えられているのだから，N②肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ，神をおそれて全く清くなろうではないか．どうか，わたしたちに心を開いてほしい．わたしたちは，だれにも不義をしたことがなく，だれをも破滅におとしいれたことがなく，だれからもだまし取ったことがない．わたしは，責めるつもりでこう言うのではない．前にも言ったように，あなたがたはわたしの心のうちにいて，わたしたちと生死を共にしているのである．わたしはあなたがたを大いに信頼し，大いに誇っている．また，あふれるばかり慰めを受け，あらゆる患難の中にあって喜びに満ちあふれている．

続いて要素 10（8 章 1 節から 24 節）である．

兄弟たちよ．わたしたちはここで，マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを，あなたがたに知らせよう．すなわち，彼らは，患難のために激しい試錬をうけたが，その満ちあふれる喜びは，極度の貧しさにもかかわらず，あふれ出て惜しみなく施す富となったのである．わたしはあかしするが，彼らは力に応じて，否，力以上に施しをした．すなわち，N①´自ら進んで，聖徒たちへの奉仕に加わる恵みにあずかりたいと，わたしたちに熱心に願い出て，わたしたちの希望どおりにしたばかりか，自分自身をまず，神のみこころにしたがって，主にささげ，また，わたしたちにもささげたのである．そこで，この募金をテトスがあなたがたの所で，すでに始めた以上，またそれを完成するようにと，わたしたちは彼に勧めたのである．さて，あなたがたがあらゆる事がらについて富んでいるように，すなわち，信仰にも言葉にも知識にも，あらゆる熱情にも，また，あなたがたに対するわたしたちの愛にも富んでいるように，この恵みのわざにも富んでほしい．こう言っても，N②´わたしは命令するのではない．ただ，他の人たちの熱情によって，あなたがたの愛の純真さをためそうとするのである．あなたがたは，わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている．すなわち，主は富んでおられたのに，あなたがたのために貧しくなられた．それは，あなたがたが，彼の貧しさによって富む者になるためである．そこで，わたしは，この恵みのわざについて意見を述べよう．それがあなたがたの益になるからである．あなたがたはこの事を，昨年以来，他に先んじて実行したばかりではなく，それを願っていた．だから今，それをやりとげなさい．あなたがたが心から願っているように，持っているところに応じて，それをやりとげなさい．もし心から願ってそうするなら，持たないところによらず，持っているところによって，神に受けいれられるのである．それは，ほかの人々に楽をさせて，あなたがたに苦労をさせようとするのではなく，持ち物を等しくするためである．すなわち，今の場合は，あなたがたの余裕があの人たちの欠乏を補い，後には，彼らの余裕があなたがたの欠乏を補い，こうして等しくなるようにするのである．それは「多く得た者も余ることがなく，少ししか得なかった者も足りないことはなかった」と書いてあるとおりである．わたしがあなたがたに対して持っている同じ熱情を，テトスの心にも与えて下さった神に感謝する．彼はわたしの勧めを受けいれ，そして更に熱心になって，自分から進んであなたがたのところに行った．わたしたちはまた，テトスと一緒に，ひとりの兄弟を送る．この兄弟が福音宣伝の上で得たほまれは，すべての教会に聞えているが，そのうえ，彼は，主ご自身の栄光があらわれるため，また，わたしたちの好意を示すために，骨を折って贈り物を集めているわたしたちの同伴者として，諸教会から選ばれたのである．そうしたのは，わたしたちが集めているこの寄附金のことについて，人にかれこれ言われるのを避けるためである．わたしたちは，主のみまえばかりではなく，人の前でも公正であるように，気を配っているのである．また，もうひとりの兄弟を彼らと一緒に送る．わたしたちは，多くの事について彼が熱心であったことを，たびたび認めた．彼は今，あなたがたを非常に信頼して，ますます熱心になっている．テトスについて言えば，彼はわたしの仲間であり，あなたがたに対するわたしの協力者である．この兄弟たちについて言えば，彼らは諸教会の使者，キリストの栄光である．だから，あなたがたの愛と，また，あなたがたについてわたしたちがいだいている誇とが，真実であることを，諸教会の前で彼らにあかししていただきたい．

要素 8 では，パウロがコリント教会の信徒に対し心を開いているので，当該信徒もパウロに心を開くことを要請している（下線 N①）．また，かかる心を開く目的は，信徒らが「肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ，神をおそれて全く清くな」るところにある（下線 N②）．一方，要素 10 ではコリント教会の信徒がすでに，「自ら進んで，聖徒たちへの奉仕に加わる恵みにあずかりたいと，わたしたちに熱心に願い出て，わたしたちの希望どおりにしたばかりか，自分自身をまず，神のみこころにしたがって，主にささげ，また，わたしたちにもささげた」ことが述べられている（下線 N①´）．そのうえで，その奉仕を自らの意思でなしとげるように望んでいる[15]．

[15]これはパウロの命令ではない．

以上をふまえれば，要素 8 と要素 10 はパウロによる当該信徒への願望であり，前者が，神の前に清くなるという内面的価値を付与することの要請であるのに対し，後者は，すでに実行してきた献金行為を主体的に継続すること（つまり外面的行為）への願望である．

要素	願望
8	内面的価値：要請
10	外面的行為：主体性

本節では，村井モデルに記載された対応の要素とテーマについての筆者による再検証をおこなった．その結果，筆者の検証に基づけば，テキストは下記の一連の関係性により構成されていた．

対応	関係性
1 と 17	挨拶・コリント教会信徒への態度と祈り
2 と 16	再訪とパウロの弁明
3 と 15	成長プロセス
4 と 14	パウロの自己推薦
5 と 13	悪賢い宣教の拒絶
6 と 12	造り上げられるもの
7 と 11	奉仕
8 と 10	願望

そもそも，村井モデルでは，1 と 17，2 と 16，3 と 15，4 と 14，5 と 13，6 と 12，7 と 11，8 と 10 が対応関係にあることから村井は当該テキストがキアスムスであることを主張していた．本節では，村井モデルについてあらためて再評価した．その結果，筆者としては，4 と 14，6 と 12，7 と 11 については村井が示した関係性を支持するものの，それ以外では別の関係性を提案するに至った．この度あらためて筆者が提示したモデルは特徴 B と合致する．したがい，テキストはキアスムスであるといえる．ここで，本稿では，筆者が示したモデルを「改定村井モデル」と呼ぶことにし，本稿ではこの改定村井モデルを前提とした，テキストに対する議論をおこなうことにする．

なお，本節では，各対応の関係性を検証するにあたり，アルファベットを付した下線箇所を対比の指標とした．例えば，要素 1 と要素 17 の対応を検証する際，要素 1 と要素 17 に内在する A と A´，B と B´，C と C´をそれぞれ対比した．また，要素 2 と要素 16 では，D と D´，E と E´をそれぞれ対比した．なお，当該箇所の出現順序に注目すれば，要素 1 では A→B→C であるのに対し．要素 17 は B´→C´→A´である．また，要素 2 と要素 16 では，前半が D→E であるのに対し後半は E´→D´である．つまり，要素 1 と要素 17 では，A が要素 1 の冒頭であるのに対し，要素 17 の A´は末尾箇所である．また，要素 2 と要素 16 では出現順序が逆転している．

一方，要素 3 と要素 15，要素 6 と要素 12，要素 7 と要素 11，要素 8 と要素 10 ではこうした逆転がみとめられない．つまり，例えば要素 3 と要素 15 の場合は F と F´，G と G´がそれぞれ対応しており，配列順は F→G，F´→G´である．こうした出現順序が逆転しない対応関係の場合，どこまでがキアスムスの要素として許容できるかという議論が生じる可能性がある．つまり例えば，仮に F と F´，G と G´が各々独立したテーマであるとすれば，同一対応（ここでは要素 3 と要素 15）内に複数のテーマが並行的に配置されていることになる．他方，F と G，F´と G´が，それぞれ独立したテーマではなく，当該対応における単一のテーマを構成する要素として機能していると解釈すれば，当該対応自体はあくまでも単一テーマによるものとなる．以上をふまえ，ここでの要素 3 と要素 15 の場合は，F と G，F´と G´が，それぞれ当該対応のテーマを構成する要素として機能しているのであり，並立したテーマを内在した形式ではないと筆者は判断した[16]．要素 6 と要素 12，要素 7 と要素 11，要素 8 と要素 10 についても，複数のテーマが独立かつ並列的に配置された構造ではない．さらに，要素 1 と要素 17 の対応における A と A´を除いた B→C と B´→C´については[17]，上述の要素 3 と要素 15 などの場合と同様に，複数のテーマが並立した構造ではなく，当該要素の組における対応のテーマを構成する要素として機能している．

以上より，本節では，当該要素の組が，キアスムスを構成する対応として許容され得る範囲であると判断した．

[16]したがい，この場合 F と G のように分割せず，むしろ双方を統合した形式で表記するべきかもしれない．
[17]注 13 の言及をふまえ，A・A′と B→C・B′→C′がそれぞれ並立したテーマであるか，それとも単一テーマを構成する要素であるかについては議論の余地がある．

６．テキストは裏返し構造といえるか

前節では，予備的検証として，テキストがキアスムスであるかの確認をおこなった．その結果，村井資料が提示した村井モデルとは異なる改定村井モデルをあらたに提案するに至ったものの，テキストはキアスムスといえることが示された．以上をふまえ，本節では，改定村井モデルを特徴 A と照合することにより，テキストが裏返し構造であるか否かの検証をおこなうことにする．その際，改定村井モデルを構成するそれぞれの対応を構成するテーマが，前半と後半の要素において互いに「否定」・「対立」もしくは「対照」的なものであるかの確認をおこなうことにする．

◇1 と 17

要素 1 と要素 17 の対応のテーマは，「挨拶」，「コリント教会信徒への態度」，「祈り」の三種類である．ここでは，それぞれのテーマについて，双方の要素がどのような関係であるかの確認をおこなう．

＜挨拶＞

要素 1 と要素 17 のテーマの一つは「挨拶」である．ここで，差出人と受取人において，前者では名前が明示されているのだが，後者では明示されていない．かかる表記法は対照的である[18]．

＜コリント教会信徒への態度＞

要素 1 と要素 17 のテーマの二番目は「コリント教会信徒への態度」である．ここで，双方の態度は「慈愛」と「厳愛」であり，意味が対照的である．

＜祈り＞

要素 1 と要素 17 の第三番目のテーマは「祈り」である．ここで，前者の祈りが，コリント教会信徒からパウロらに向けられているのであるが，後者では，逆転し，パウロらから当該信徒に向けられている．以上のように，双方のテーマは同一であるが，祈る主体と祈られる対象が逆転しており[19]，関係性が対照的である．

◇2 と 16

要素 2 と要素 16 のテーマは「再訪」と「パウロの弁明」である．

＜再訪＞

要素 2 と要素 16 のテーマの一つは「再訪」である．前者の再訪計画は過去のものであるが，後者の計画は未来のものである．この点については，時制が対照的である．また，前者はすでに頓挫したが，後者はまだ頓挫していない．ここでの頓挫と未頓挫も対照的である．

＜パウロの弁明＞

要素 2 と要素 16 のもう一つのテーマは「パウロの弁明」である．前者の弁明は，訪問の計画が頓挫したことへの弁明であり，パウロが実施しなかった行為に対するものである．一方の後者の弁明は，金銭的に負担をかけなかったことへの弁明であり，パウロが実施した行為に対するものである．つまり，双方の弁明は，不実施行為と実施行為という対照的な事項に対するものである．

◇3 と 15

要素 3 と要素 15 は「成長プロセス」がテーマである．

＜成長プロセス＞

前者は，「コリント教会」レベルにおける「成長プロセス」が表示されているのであるが，後者は「パウロ個人」のレベルのものである．双方のレベルは，団体と個人，あるいは非個人と個人であり対照的である．

◇4 と 14

要素 4 と要素 14 は，「パウロの自己推薦」がテーマである．

＜パウロの自己推薦＞

要素 4 では，パウロは，信徒らによる内心（つまり無形のもの）を根拠に推薦を要請した．それに対し，要素 14 では，パウロ自身の過去の経歴（つまり有形のもの）を根拠に推薦を要請した．かかる要請の根拠が「無形」であることと「有形」であることは対照的である．

◇5 と 13

要素 5 と要素 13 のテーマは「悪賢い宣教の拒絶」である．

＜悪賢い宣教の拒絶＞

[18]本テキストの著者のパウロの他の書簡（例えば，ローマ人への手紙[14]，ピレモンへの手紙[17]）でも，差出人と受取人の記載法における対照性がみとめられる．かかる差出人と受取人の対照性がパウロ独自の修辞的技巧なのかについては別稿で述べるつもりである．

[19]こうした祈る側と祈られる側の逆転は，ピレモンへの手紙の B と K の対応[17]でもみとめられる．

要素 5 では，「信者」が方便に基づく宣教をおこなうことへのパウロによる拒絶が表明されている．一方，要素 13 では，「にせ使徒」がおこなう偽りの宣教へのパウロによる拒絶が表明されている．パウロにとり，「信徒」は内部要員であるが，「にせ使徒」は信徒の敵対勢力であるので双方の立場は対照的である．

◇6 と 12

要素 6 と要素 12 のテーマは，「造り上げられるもの」である．

＜造り上げられるもの＞

要素 6 では，「造り上げられるもの」に相当するのは「他界後の世界」である．つまり，要素 6 は他界後の世界における活動を前提としている．要素 12 で「造り上げられるもの」は「パウロ」である．かつ，かかる活動舞台は「現実世界」に限定される．つまり，前者と後者は，死後の世界と生前の世界であり，双方におけるパウロが働く世界は対照的である．

◇7 と 11

要素 7 と要素 11 のテーマは「奉仕」である．

＜奉仕＞

要素 7 は，「和解させる任務」であり，「精神的」な奉仕である．それに対し，要素 12 は，「エルサレムの信徒のための献金」は「外面的」な奉仕である．したがい，双方の形態は対照的である．

◇8 と 10

要素 8 と要素 10 は「願望」がテーマである．

＜願望＞

要素 8 は，「内面的価値」の付与の「要請」である一方，要素 10 は，「主体性」に基づく「外面的行為」の継続への希望である．ここで前者と後者は，内面的事柄と外面的事柄であり対照的である．また，前者の意思は，パウロ側に傾いているが，後者は，信徒側に傾いている．つまり，双方の意思の所在において対照的である．

以上を下表にまとめる．なお，表中の「対照性」の項目は，各対応のテーマが対照的であるかを示すものである．テーマが対照的である場合「○」を付した．

対応	テーマ	対照性
1 と 17	挨拶	○
	コリント教会信徒への態度	○
	祈り	○
2 と 16	再訪	○
	パウロの弁明	○
3 と 15	成長プロセス	○
4 と 14	パウロの自己推薦	○
5 と 13	悪賢い宣教の拒絶	○
6 と 12	造り上げられるもの	○
7 と 11	奉仕	○
8 と 10	願望	○

以上より，1 と 17 から 8 と 10 に至るすべての対応のテーマが対照的であることが確認できた．したがい，改定村井モデルは，特徴 A に合致する．また，本節の議論は，当該モデルが特徴 B に合致することを前提としている．以上より，当該モデルは特徴 A と特徴 B の双方に合致するため，テキストは裏返し構造である．

7．おわりに

従来，裏返し構造は，異郷訪問譚における構造上の「共通の約束」[1]であり，異郷訪問譚との関連で論じられてきた．一方で，異郷訪問譚とはいえないテキストにおいては，かかる裏返し構造との関連からは論じられてこなかった．

以上をふまえ，筆者は，アイヌ口承テキストおよび聖書テキストにおける，異郷訪問譚とはいえず，かつ，裏返し構造である事例を紹介してきた．本稿は，聖書テキストのなかでも新約聖書テキストに限定したうえで，かかる異郷訪問譚とはいえない新約聖書テキストにおいて，裏返し構造が出現する蓋然性を調査することを目的としている．

新約聖書は合計 27 巻により構成されており，現在まで 13 巻の検証がおこなわれた．先行研究の知見に基づけば，調査したすべての巻が，裏返し構造からなることがみいだされている．本稿は，未だ調査されていないテキストの一つである「コリント人への第二の手紙」を調査した．その際，まずは，当該テキストを西條が提示した異郷訪問譚の特徴と照合することにより，かかるテキストが異郷訪問譚といえるかの確認をした．本稿の調査によれば，当該テキストは異郷訪問譚ではない．

ここで，本稿では，当該テキストに対し，裏返し

構造の構造上の上位概念である構造的キアスムスの観点で分析した村井の既存のキアスムスモデルに注目した．その際，村井資料が提示したモデルがキアスムスといえるかの予備的検証をおこなった．かかる予備的検証の結果，新たに改定村井モデルを提示するに至ったものの，当該テキストがキアスムスからなることは確認できた．以上をふまえ，本稿では，この改定村井モデルを構成するそれぞれの対応の関係性について検証した．その結果，当該モデルのすべての対応を構成する要素が互いに対照的であることがわかった．以上の特徴は，本稿での裏返し構造の定義に当てはまるため，テキストは裏返し構造により構成されていることが明らかになった．したがい，本稿の知見に基づけば，新約聖書の 27 巻中，14 巻が裏返し構造であることになる．残りの巻については，別稿で検証する予定である．

引用文献

[1]大林太良．異郷訪問譚の構造．口承文芸研究．1979, (2) , p.1-9.
[2]依田千百子．韓国の異郷訪問譚の構造．口承文芸研究．1982, (5) , p.47-57.
[3]加藤泰．済州島の二つの神話の構造分析．民族学研究．1979, 44(1), p. 83-90.
[4]大喜多紀明．芥川龍之介『トロッコ』の裏返し構造：良平の「新生」場面の機能．国語論集．2018, (15), p. 45-52.
[5]大喜多紀明．長編アニメーション映画『崖の上のポニョ』の構造分析：2 編の小さな異郷訪問譚の接合．人間生活文化研究．2017, (27), p. 1-13.
[6]大喜多紀明．小山ゆう『チェンジ』にみられる裏返し構造：漫画作品における異郷訪問譚の事例．人間生活文化研究．2020, (30), p. 146-150.
[7]大喜多紀明．アイヌ口承テキストに見られる裏返し構造：異郷訪問譚によらない事例．北海道言語文化研究．2016, (14), p. 45-72.
[8]大喜多紀明．聖書「創世記」冒頭の 5 つの物語の構造：異郷訪問譚によらない裏返し構造の事例．北海道言語文化研究．2017, (15), p. 195-216.
[9]いのちのことば社．聖書 新改訳 注釈・索引・チェーン式引照付．いのちのことば社，1981[20].
[10]山田耕太．新約聖書の書簡文学．敬和学園大学研究紀要．2010, 19, p. 101-114.
[11]日本聖書協会．聖書．日本聖書協会，1954, p. 278-292.
[12]大喜多紀明．新約聖書「マタイによる福音書」における裏返し構造：James B. Jordan の図式に基づく検証．人文×社会．2022, (5), p. 193-212.
[13]大喜多紀明．「ルカによる福音書」全体における裏返し構造．人間生活文化研究．2018, (28), p. 75-81.
[14]大喜多紀明．新約聖書「ローマ人への手紙」における裏返し構造:Drake モデルにみとめられるキアスムスに基づく検証．北海道言語文化研究．2023, (21), p. 71-93.
[15]大喜多紀明．新約聖書「ガラテヤ人への手紙」における裏返し構造：Bligh のキアスムス構造を前提として．人間生活文化研究．2023, (33), p. 561-574.
[16]大喜多紀明．新約聖書テキストにおける異郷訪問譚と裏返し構造の関係：「テトスへの手紙」と「ヘブル人への手紙」の場合．人文×社会．2021, (4), p. 79-96.
[17]大喜多紀明．新約聖書に収納された「ピレモンへの手紙」にみられる裏返し構造．人間生活文化研究．2019, (29), p. 293-298.
[18]大喜多紀明．新約聖書「ヤコブの手紙」にみとめられる裏返し構造：「物語」とはいえないテキストの事例．人間生活文化研究．2019, (29), p. 15-21.
[19]大喜多紀明．新約聖書「ペテロの第一の手紙」における裏返し構造．北海道言語文化研究．2022, (20), p. 1-19.
[20]大喜多紀明．新約聖書「ヨハネの第一の手紙」における裏返し構造:Berge が提示したキアスムス構造に基づく検証．人文×社会．2022, (7), p. 87-99.
[21]大喜多紀明．新約聖書に収納された「ヨハネの第二の手紙」の構造：裏返し構造をあてはめる観点からの分析．人間生活文化研究．2020, (30), p. 308-311.
[22]大喜多紀明．新約聖書「ヨハネの第三の手紙」にみられる裏返し構造．人文×社会．2021, (1), p. 451-459.
[23]大喜多紀明．新約聖書「ユダの手紙」にみとめ

[20]引用箇所は，95 ページと 96 ページの間に挿入された「緒論」の 1 ページ目である．当該箇所にはページ数が割り当てられていない．

られる裏返し構造. 人間生活文化研究. 2020, (30), p. 353-357.
[24]西條勉. 千と千尋の神話学. 新典社新書, 2009.
[25]松村一男. 三つの構造:キアスムス, プロップ, レヴィ＝ストロース. 和光大学表現学部紀要. 2020, (20), p. 79-98.
[26]McCoy, B. Chiasmus: An Important Structural Device Commonly Found in Biblical Literature. Chafer Theological Seminary Journal, 2003, 9(2), p. 17-34.
[27]Heath, D. M. Chiastic structures in Hebrews: with a focus on 1: 7-14 and 12: 26-29. Neotestamentica, 2012, 46(1), p. 61-82.
[28]Heath, D. M. “Chiastic structures in Hebrews: A study of form and function in Biblical discourse” , Doctoral dissertation, Stellenbosch: University of Stellenbosch, 2011, p. 67.
[29]Welch, J. W. Chiasmus in the New Testament. Chiasmus in Antiquity: Structures, Analyses, Exegesis, Maxwell Institute Publication, 1981, p. 211-249.
[30]Blomberg, C. The structure of 2 Corinthians 1-7. Criswell Theological Review. 1989, 4(1), p. 3-20.
[31]村井源. “コリントの信徒への手紙一の修辞構造：テキスト全体での集中構造（コンチェントリック）と交差配列（キアスムス）”. 聖書の修辞構造. http://bible.literarystructure.info/bible/46_1Corinthians_1.html#1-1,（参照 2023-11-01）.
[32]村山盛葦. 第一コリント 5 章 5 節についての一考察：終末論的霊肉二元論の観点から. 基督教研究. 2009, 71(1), p. 83-100.

Abstract

The reversal structure is a “common promise” in the structure of *“Ikyou-houmon-tan”*, but there are reported cases where the reversal structure is recognized in biblical texts, even though they are not in the form of *“Ikyou-houmon-tan”*. In this paper, we conducted a verification on whether the text of “The Second Letter to the Corinthians” contained in the New Testament, which has not yet been investigated from the viewpoint of the inverted structure, can be said to be composed by the reversal structure. As a result, it was recognized that this text is composed of a reversal structure.

（受付日：2023 年 11 月 6 日，受理日：2024 年 9 月 21 日）

大喜多　紀明（おおぎた　のりあき）
現在：やぐら遺跡伝承文化研究会代表

プロフィール：
やぐら遺跡伝承文化研究会代表（2011 年～現在まで）.
1965 年神奈川県生まれ. 東京工業大学大学院総合理工学研究科電子化学専攻修士課程修了. 団体職員. 専門は有機化学であったが, 2004 年以降の専門は文化人類学・民俗学. 現在は特にキアスムス論を前提とした文学研究をおこなっている.

主な論文：
大喜多紀明. アイヌの子守歌（イヨンルイカ）についての考察：心性が継承される直接的なプロセス. 京都民俗. 2013, (30/31), p. 143-158.
大喜多紀明. 新約聖書「ローマ人への手紙」における裏返し構造：Drake モデルにみとめられるキアスムスに基づく検証. 北海道言語文化研究. 2023, (21), p. 71-93.